

村田大使挨拶 ヘルシンキ大学セミナー（5月17日（金））

ご列席の皆さま、おはようございます。

先月16日に駐フィンランド日本国大使として着任しました村田隆です。日本とフィンランドの外交関係樹立100周年を記念した本日のセミナーの開催を心よりお慶び申し上げます。主催されるヘルシンキ大学及びフィンランド東洋学会の皆様をはじめ、関係者全ての方々の御尽力に感謝いたします。

100年にわたる日本とフィンランドの友好関係は政治、経済・ビジネス、文化等様々な分野において、両国の先人たちが連綿と築き上げてきた人の輪のつながりの賜物です。この両国の人の輪の先駆けとなったのが、今から100年前の1919年に初代駐日代理公使として日本に赴任した、当時ヘルシンキ大学教授であったグスタフ・ヨン・ラムステッド氏です。同氏は日本滞在中、外交活動の傍ら、言語学者としても日本の研究者との交流を行い、民俗学者の柳田國男や作家の宮沢賢治らにも影響を与えたことで知られています。また、フィンランドに帰国後は、1938年にヘルシンキ大学で初めて日本語講座を開設し、現在の当地における日本語教育の礎を築かれました。このように同氏は外交だけでなく、学術分野においても両国の友好関係構築に多大な貢献をされました。

本日のセミナーでは、日本語、日本の歴史、文学、武道、食文化等に関して、ヘルシンキ大学だけでなく、オウル大学やトゥルク大学、そしてスウェーデンのダーラナ大学や日本の名城大学や横浜国立大学から教授や専門家の方々がお集まりいただき、日本とフィンランド両国における文化、政治、歴史、ビジネス、外交等多岐にわたる分野での研究成果を発表していただけると伺っております。また、日本大使館からも職員のリトヴァ・ラルヴァが発表すると聞き、大変頼もしく感じています。

本日のセミナーの開催はまさにラムステッド氏をはじめとする両国の先人達が紡いできた人の輪が、現在に至るまで大きな広がりを見せ、その結びつきを強めている証左と言えるでしょう。同時に、このような取り組みを大変心強く感じ、改めて主催者の方々のイニシアティブに深く御礼申し上げます。日本大使館としても、両国間の確固たる信頼関係をさらに深めながら、両国の関係を幅広い分野で相互利益につながるようにさらに発展させていきたいと思っております。

さて、今月1日から日本は新しい元号「令和」の時代を迎えました。この元号には「厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一

人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい。」との願いが込められています。もちろん、この大きな花は日本だけでは開花させることはできません。国際社会との関係、就中、2016年の両国首脳間で確認された天賦のパートナーシップを有するフィンランドとの協力が不可欠です。

本日のセミナーが、これまでの両国の100年間を振り返り、新たな100年に向けた両国の姿を思い描き、両国がお互いに大輪の花を咲かせる契機となることを願ってやみません。

ご清聴、ありがとうございました。

(了)